

進化の証

二大会 W制覇

『平和堂カップ』

十月十三日・十四日の二日間、長谷運動公園にて平和堂カップ（ブロック予選）が行われた。洛西地区からは1チームのみが関西大会への切符をつかめるといふ厳しい条件の下、JFCの試合開始を告げるホイッスルが響いた。

『対 向日市』

勝負の行方を大きく左右する大事な初戦の相手は、過去何度も対戦している向日市。二年前、労金カップでPK戦を制してなんとか勝つことのできた相手に、JFCは堂々たる戦いぶりを見せ、三対〇で勝利した。

『進めるぞ！』

NO.1

二日目、準決勝の相手、亀岡に接戦の末一対〇で勝ったJFCは、その勢いのまま決勝に進み、対・園部に三対〇で快勝！洛西ブロックの頂点に輝き、関西大会京都予選への進出を決めた。

Special Episode

『奇跡の軌跡』

覚えていませんか？四年生だったころのあなたたちが存在していません。これからの一戦一戦で、あなたたちが起こす奇跡の数々が未来へとつながる不滅の軌跡となるよう……十八人全員が、闘志あふれるプレーで私たちを魅了してくださいね。

一戦一戦、強くなるね！



アシックス リーク

十月二十七日、吉祥院グラウンドにてアシックスリーグが開催された。セカンドチームが主体となったこの大会、JFCはチームneo・6名にハヤテ・カズキの両選手を加え、8名で参加した。

『初戦突破』

最初の相手、Jマルカに對し、JFCはスタートから緊張感のあるプレーを見せ、先制したわずか一点のリードを守って勝利。この試合が後々の対戦により流れをもたらした。

『連戦』



タイトなスケジュールながら、続く三戦をものにしたJFCは、四試合目が終わった時点で優勝を決めた。最後の対・桂戦は、連戦の疲れもあったのか力負けして惜敗した。（残念！最後まで勝ちたかったね）しかしながら、neo主体のチームでタイトルを獲得したこと、得点王が二名輩出されたこと、交代要員がいない逆境をものもしない闘志を見られたことからも、今大会はJFCにとって頼もしい戦力の存在を感じさせてくれた。



8人で戦いぬぎました！



編集後記

今回、平和堂カップで善戦して関西大会への道を切り開いたチームJ、アシックスリーグで優勝にプラスαの結果をもたらしたチームneo。幸運なことに、両方の試合に立ち会うことができ、また、どちらの大会も、出場チームの選手たちがみな生き生きとプレーしていて、応援していて楽しかったです。見ごたえのある試合を、これからも期待していますよ！

監督、コーチの方々……いつもお世話になり、ありがとうございます。ゲキを飛ばしながらのチーム作り、ご苦労は並々ならぬものだと思います。まだまだ足りないところはありますので、選手たちもまた、彼らなりに一生懸命です。そんな十八人をこれからも支えてくださいませよう、改めてお願いいたします。

☆上記『奇跡の軌跡』にて触れている「労金カップ」ですが、次号にて取り上げさせていただきます。当時はまだ入団されておられなかった方々も、あの日のことをすでに記憶にとどめている方々も、どうか楽しみながらご覧ください。なお、この記事の「奇跡」とは、思いがけない結果やそれにつながる名プレーのことを示しています。